

## 第6学年社会科学学習指導案

日時 平成15年9月30日(火) 5校時

対象 第6学年男10名 女7名 計17名

授業者 小田島 雄

### 1 単元名 新しい日本の国づくりを見つめよう

小単元名 新しい時代の幕あけ

### 2 単元について

#### (1) 小単元の位置づけ

本単元は、学習指導要領第6学年の目標(1)「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。」ことを大きなねらいとする単元である。また、本単元は同第6学年の内容(1)の力「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べて、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」および「大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。」にかかわるものである。

前小単元「民衆の成長と社会の変化」では、江戸時代において、ペリーが率いる米国艦隊の来航が開国や物価上昇につながり、最終的には江戸幕府が滅びたことを学習した。本単元では、明治天皇を中心とした新政府が成立したこと、文明開化、廃藩置県や四民平等などの諸改革、大日本帝国憲法の発布を取り上げ、政治や社会の仕組みが変わったことなどを学習する。さらに、次小単元「二つの戦争と日本・アジア」において、日清・日露の戦争や条約改正などについて調べ、本小単元で学習する大日本帝国憲法の発布ともかかわらせながら我が国の国力が充実したことおよび国際的な地位が向上したことについての学習へと発展していくものである。

#### (2) 教材について

江戸幕府が倒れ、倒幕のために活躍した西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允らは西洋を手本にしながら、1868年に天皇を中心とした新政府をつくり、政治や社会の改革を進めた。具体的な改革としては、明治天皇は政治の方針として五箇条の御誓文を宣言し、政府は廃藩置県・四民平等・徴兵令・地租改正などを進めた。

また、明治になると都市を中心に、レンガ造りの洋館、ガス燈、馬車、鉄道、郵便、学校、洋服、洋食など欧米の文化をさかんに取り入れた文明開化が進んだ。

しかし、政治や社会の仕組みが変わっても農民の税の重さは江戸時代と変わらず、各地で農民による一揆が起こった。一方、政治や社会の仕組みが変わったため、多くの士族は、それまで武士として得ていた収入や特権を失った。そのため士族も政府に対して不満を持ち、各地で反乱を起こした。その代表が西郷隆盛を中心とした西南戦争であるが、新政府の武力の前に破れた。

その後、武力ではなく言論で政府とたたかう自由民権運動が全国に広がり、板垣退助らを中心として政府に議会を開くことを要求した。政府は、演説会や新聞などを厳しく取り締まり自由民権運動をおさえようとしたが、高まりを無視することができず、1890年に国会を開くことを約束した。そして、伊藤博文が中心となり、主権は天皇にあることを定めた大日本帝国憲法が1889年に発布され、翌年には第1回帝国議会が開かれた。

### 3 児童の実態

歴史の学習には興味をもっている児童が比較的多く、歴史関係図書などを読書したり自主学習に取り組んだりする児童も見られる。

授業では、直接体験的な活動が少ない学習にもかかわらず、絵や写真等の資料をもとに昔の人々の生活を想像しながら、意欲的に調べ学習を進める姿が見られるようになった。

また、これまで興味・関心や疑問を持つことのできるような資料の提示によって、疑問

を持てるようにしながら課題設定を進めてきた。そのことで、十分とはいえないものの資料を見る力が育ってきた。既習事項を生かした発言も少しずつ増えてきている。

しかし、追究場面での年表や文献資料の読み取りやそれらから自分の考えをまとめる力は十分とは言えない。さらに、自分の考えや追究結果と友達の考えや追究結果を比較・関連・総合して考えたり判断したりしながら、社会的事象の意味をより広い視野から考える力も育っているとは言えない。

そこで、各種資料の効果的な活用を図るとともに、既習事項を生かしながら児童が考えを持てるように支援し、個々の考えや追究結果を比較・関連・総合して考えたり判断したりする場面を設定し、課題解決を進めながら社会的事象の意味を考えられるようにしていくことが必要である。

#### 4 指導観

本単元では、天皇を中心とした明治政府がつくられ第1回帝国議会が開かれるまでを中心に展開することとし、明治維新をきっかけとして社会の仕組みや人々の生活の様子が変化したこと、自由民権運動が起こり国会が開かれたことの二つを大きな学習の柱として据えていく。

明治維新をきっかけとして社会の仕組みや人々の生活の様子が変化したことについては、廃藩置県・四民平等・地租改正などの諸改革によって近代国家としての社会の仕組みが整い始めたことや欧米の文化を広く取り入れて我が国の近代化が進められたことについて調べ、人々の生活が大きく変化したことをとらえさせていく。また、その中で、明治時代の変化は人々にどのように受けとめられたかを考えさせていきたい。

そのためにまず、五箇条の御誓文や文明開化が進んだ都市部の様子の資料に触れさせながら課題を設定する。そして、人々の暮らしや文化の変化という視点からの「文明開化」について個々の課題を持てるようにし、追究結果にあった表現方法で簡潔に表現し、追究結果や自分の考えを交流していく。さらに、社会の仕組みの変化という視点からの「廃藩置県」「四民平等」「徴兵令」「地租改正」などについて、効果的な資料をもとにそれらの持つ意味を考えながら課題解決を図ることができるようにしていく。

自由民権運動が起こり国会が開かれたことについては、明治維新による政治や社会の変化が人々にとって必ずしも期待したような変化ではなかったり、外国との不平等な条約がそのままだったりしたために自由民権運動が起こり、その結果が大日本帝国憲法や国会の開設につながったことをとらえさせていきたい。

そのために、自由民権運動についても問題意識の持てる資料を提示することで課題をつくり、明治維新による変化と当時の人々の期待した願いとを比べさせながら、武力から言論によって国会を開けという動きが生まれたことをとらえさせていく。さらに、大日本帝国憲法制定の過程とその内容について、それが人々の願いに沿って実現されたものか考えながらとらえることができるようにしていく。

#### 5 小単元の目標および評価規準

##### (1) 小単元の目標

○文明開化、明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の発布に関心をもち、事象や人物を通して意欲的にそれらの様子を調べようとする。

【社会的な事象への関心・意欲・態度】

○社会の仕組みの変化は、当時の人々にとってどのように受けとめられたか考えることができる。

○自由民権運動の高まりは国民の政治に対する願いの表れであることに気づくことができる。

【社会的な思考・判断】

○明治時代に入り、文明開化によって社会や人々の生活が変化したことについて調べてまとめたり発表したりすることができる。

【観察、資料活用の技能・表現】

○欧米の文化を取り入れつつ我が国の近代化が進められたことが分かる。

○明治政府が憲法を制定し、天皇中心の国づくりを進めたことが分かる。

【社会的な事象についての知識・理解】

(2) 小単元の評価規準

- 明治初め頃の絵を見ながら、江戸時代と比べて変わったところを興味をもって調べようとする。 【社会的な事象への関心・意欲・態度】
- 明治時代の人々が政治に対してもっていた願いを考えるとともに、大日本帝国憲法制定の過程とその内容をとらえることができる。 【社会的な思考・判断】
- 町の様子や学校の変化など、新しい時代になっての人々のくらしや産業の変化について調べることができる。 【観察、資料活用の技能・表現】
- 明治政府が西洋の政治や社会、文化を手本にして、天皇中心の国づくりをめざしたことがわかる。 【社会的な事象についての知識・理解】

6 小単元指導計画(7時間)

段階	時間	ねらい	支援の計画	おもな学習資料
つかむ	1	五箇条の御誓文や明治政府ができたころの町の様子を資料をもとに、明治時代の変化について課題を持つことができる。	○人々の服装、建物、交通の他にも変化したことを予想させながら、多面的に追究できる課題を設定する。	・五箇条の御誓文 ・銀座通煉瓦造鉄道馬車往来図
追究する	2 3	個々の学習課題をもとに、資料を使いながら明治維持代の変化について追究することができる。	○資料をもとに体験したことを効果的に表現する方法について助言する。	
まとめ	4 5	4 欧米の文化を取り入れつつ我が国の近代化が進められたことが分かる。 5 社会の仕組みや生活の変化は、当時の人々にとってどのようなものであったか考えることができる。	○個々の追究結果を交流を通して、文明開化はどういうねらいのもとに進められたか考えるようはたらきかける。 ○明治政府の進めた改革は人々にとってどう受けとめられたかという考えを交流する場を設定する。	・個々の追究資料 ・学問のすすめ ・五箇条の御誓文 ・五榜の掲示 ・年表 ・新しい身分の割合グラフ ・地租改正資料
追究する ・ まとめ	6 7	6 自由民権運動の高まりは、国民の政治に対する願いの表れであったことを考えることができる。 7 明治政府が、天皇中心の立憲政治を確立したことが分かる。	○自由民権運動を、新政府の方針・改革と国民の政治に対する不満から起きてきたことをとらえることができるようにはたらきかける。 ○大日本帝国憲法は、自由民権運動などの国民の願いが実現したものかどうか考える場を設定する。	・自由民権運動演説会の様子 ・年表 ・西南戦争の様子 ・板垣退助の考え ・大日本帝国憲法

## 7 本時の指導

### (1) ねらい

○自由民権運動から、明治政府の政治に対する国民の願いを考えることができる。

【社会的な思考・判断】

### (2) 本時の評価規準

(A) 明治政府の政治への不満と板垣退助の考えから、国民の政治に対する願いをとらえることができる。

(B) 板垣退助の考えから、国民の政治に対する願いをとらえることができる。

(Cへの支援) 板垣退助の考えについて理解が図られるように資料の読み取りを進める。

### (3) 展開

階	児童の学習活動	支 援	資 料
つ か む 12 分	1 資料「自由民権運動の様子」から課題を設定する  人々は、政府にどんなことをうったえたのだろうか。	○資料の中の人物がどういう立場の人物かを明らかにし、人々が何かを願って演説していることをとらえることができるようにする。	・自由民権運動演説会の絵
追 究	2 明治政府の進めたきた政治について考える ・平民…徴兵令をなくせ ・もと農民…地租を下げろ ・もと士族…行き場がない	○国民と政府が対立する理由について、前時までの明治維新による変化への不満から想起するようはたらきかける。	
す る	3 「西南戦争」について知る	○政府軍に敗れたことで、武力から言論へ変わったことをとらえることができるようにする。	・西郷隆盛の顔 ・西南戦争の様子
25 分	4 「板垣退助の意見書」から人々の願いについて考える	○政府に出した意見書から人々の願いを考えられるように、資料をていねいに読み取る。	・板垣退助の顔 ・板垣退助の考え
	5 自由民権運動の様子についてとらえる ・自由民権運動の広がり ・政府の対応	○自由民権運動について説明するとともに、政府側の対応についても想像させる。	・年表
ま と め	6 本時の学習をまとめる。  人々は、政府の政治への不満と国会を開くことをうったえ、自由民権運動を進めた。	○人々は、政府に対してどのような願いをもっていたのかまとめるようはたらきかける。	
る	7 本時をふり返る ・自己評価や感想	○分かったこと、考えたことなどについて記述する。	
8 分	8 次時の学習についてふれる	○その後、人々の願いにそったかたちになったかどうかを追究することを知らせることで次時への意欲とする。	

(4) 板書計画

<p>中心資料： 自由民権運動演説会</p>	<p>課題 人々は、政府にどんなことをうったえたのだろうか。</p> <p>・徴兵令をなくせ ・地租を下げろ ・士族の行き場がない</p> <p>   明治政府の政治の不満 ↓ 士族を中心に反乱 (西南戦争などで破れる) ↓ 言論によるうったえ…板垣退助ら ・国民が選んだ議員による政治を ・国会を開け    自由民権運動</p> <p>まとめ 人々は、政府の政治への不満と国会を開くことをうったえ、自由民権運動を進めた。</p>	<p>資料：西南戦争</p>
<p>聞いている人…国民 演説者…国民の立場の人 警官…政府からの命令で演説をやめさせようとしている</p>		<p>資料：年表</p>
<p>資料： 板垣退助の意見書</p>		

8 中心資料 絵資料「自由民権運動演説会」

